# 高知・芳原城跡

1 所在地　高知県吾川郡春野町芳原
2 調査期間　一九八三年（昭58）五月～七月
3 発掘機関　高知県教育委員会文化振興課
4 調査担当者　宅間一之・出原恵三
5 遺跡の種類　城跡
6 遺跡の年代　一五世紀後半頃
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

芳原城跡の所在する春野町芳原は、高知県のほぼ中央部に位置し北・東二面を高知市に接し、南は土佐湾に面している。当遺跡は、春野町西部を流れる仁淀川によって成形された吾南平野に点在する独立丘陵中の一つを占め、通称「城山」と呼ばれている。海抜約三三mを測る平山城であり、古くから戦国時代の城として知られている。また発掘調査に先行して実施された踏査により、詰・二ノ段などの遺構が残存していることが確認されている。更に周囲には城山を囲むように北堀・東堀・南堀・大城門・弓場などのホノギが残っている。

（高知・土佐長浜）

当遺跡の調査は、ほ場整備事業に伴うものであり、調査対象地は城山周辺の北堀・東堀・南堀・大門である。地名からして当然芳原城に関連した堀状遺構等の存在が期待されるところであった。

調査方法は城山に対して直交する形に九本のトレンチを入れたが堀・溝等の遺構を検出することはできなかった。しかしながら地表下四〇～八〇cm下げたところに良好な遺物包含層を検出することができた。遺物包含層は青灰色泥土からなる植物腐植土層の上に載っており、山裾から七～八m幅で南堀・東堀の全面に広がっている。地層観察から見て芳原城が機能し遺物が捨てられた頃、この周辺は葦の茂る湿地帯であり、堀を構築する必要のない自然環境であったと考えられる。

遺物包含層より出土した遺物は、杯・皿等の各種土師質土器・瓦質土器・国内産陶器・輸入陶磁器類など二万七千余の土器片と、二五〇点の木製品・赤銅製笄等である。中でも木製品はここに紹介する護符の他に下駄・箸・椀等の日常生活用具と共に、大小の陽物・人形・舟形の呪具が出土しており、当時の精神生活を彷彿させるものがある。遺物包含層の時期についてであるが、輸入陶磁器等からほぼ一五世紀後半代が考えられ、後述する護符の記載年代とも一致

する。遺物は一括廃棄されたような状況を呈しており、芳原城の消長を示していると考えられる。

さて護符の出土状況であるが、出土地点は城山の南東端にあたる南堀の東端部の植物腐植土層上より他の遺物と共に出土している。表向きで護符の上を北に向け、ほぼ水平な状況で出土している。他に護符に関係するような付属遺物は認められないし、他の呪具とも一〇m以上の隔たりがある。

**8** 木簡の釈文・内容

(1) 「（梵字）奉轉讀大般若経一部　明應二年（穿孔）
七月　。」332×21×5

上端は山形をなし下端の右角を斜に切っている。下から五・三cmのところに四mmの円孔を穿っている。

**9** 関係文献

宅間一之「芳原城跡一試考」（『土佐史談』一五六号　土佐史談会　一九八一年）

宅間一之「芳原城跡」（『中世の呪術資料』広島県草戸千軒町遺跡調査研究所・広島考古学研究会　一九八四年）

高知県教育委員会『芳原城跡発掘調査報告書』（一九八四年）

（出原恵三）

## 福岡・大宰府跡（不丁地区）

**1** 所在地　福岡県太宰府市大字観世音寺字不丁

**2** 調査期間　一九八三年（昭58）三月～一九八四年（昭59）三月

**3** 発掘機関　九州歴史資料館

**4** 調査担当者　石松好雄ほか

**5** 遺跡の種類　官衙跡

**6** 遺跡の年代　奈良時代

**7** 遺跡および木簡出土遺構の概要

大宰府史跡におけるこれまでの発掘調査の結果、政庁地区（都府楼跡）の前面では、中軸線上に予想された朱雀大路的道路の遺構が存在せず、広場的な性格をもつ空間地であったことが明らかになった。これの東側の日吉地区では一一棟分の掘立柱建物跡が検出され、八世紀前半代から官衙域が形成されていたことが判明した。今回の調査地は広場に西隣し、政庁地区の西南

（太宰府）